

# 医芸俳壇



長野 有泉七種

東京 篠田那珈

極寒の月光は地に親しまず

一月号会誌計報欄に同期生三名

密葬四十九日忌済しと一月半ば

戦死せし日時忘れず供花す寒椿

山川の雪にござしてとどろけり

一山の夜明けの雲に初音かな

薄氷の未練がましく消えゆけり

夕刊に春一番と大活字

青森 秋霧朝光

タイにて五句

亡き父を語る人居て秋の月  
ふるさとにわが山河あり秋るる

縄文の六本柱秋晴るる

見えぬ手に引かれ分け入る花野かな

夕雁の光となりて尾根越ゆる

静岡 岩本漂人

タイにて五句

オオサイチヨウ乾期の空を帆翻す

短日や森に響きしオニカツコウ

大いなる日はアジサンを赤く染め

密林の木の葉と化してヒメフクロウ

冬羽のチャガシワカモメが磯を埋め

新潟 中村雄彦

降り続く雪の深空や南恋ふ

甘酒を吹きつつ記す旅日誌

眉顰め口開け歩む雪の道

稚児のごと子守の女蜜柑食う

肝もある鮫鱗の鍋探りつつ

千葉 秋葉琢磨

東京 小南丁字

初ドラマ憎まれ役のおやじ殿

安房の国ぐるりと巡り水仙郷

鯨喰み房総の花多數買ふ

大地震人集りて春の町

老梅に瓦飛び来る大地震

啓蟄や妊婦は強し避難民

涼として朝顔一輪初日射す

陽が創くる流れの水花の造形美  
うたた寝を轉り覚ます牡丹苑

ザリガニを釣る三四郎池童ら縁

横浜港波と対話の春の椅子

大地震人集りて春の町

老梅に瓦飛び来る大地震

啓蟄や妊婦は強し避難民



東京 福富 清子

退く波を躊躇に春を惜しみけり  
雪柳胸中山河のひとすみに  
親を泣くか佐保姫恋つか山鳩は  
飽食とメールの御世を土筆かな  
地の塵を雲居に放て揚雲雀

東京福富清子

古里の庭に開きし江戸の梅

兵庫  
廣辯逸郎

まだ何も画かぬキヤンバス水温も  
うらうらと影うらうらと水草生ふ  
赤椿にはまばたきをせぬことに

東京  
福音  
規子

涅槃図の月がもつとも孤なりけり  
薄氷のごとき片恋なりしかな  
まだ何も画かぬキヤンバス水温む  
うらうらと影うらうらと水草生ふ  
赤椿にはまばたきをせぬことに

東京  
粂木秀穂  
咲き満ちて万朶の桜ゆるぎなし  
我よりも先に乗り込む落花かな  
落花ほろほろこの閑かさは淨土かも  
寄りそひつ離れつ搖るる花筏  
奔流のごとし疾風の花吹雪

東京 初芝 澄姫  
花咲いたしげぐと見る寒桜  
紀尾井坂くろく輝くモチの実が

東京初芝澄雄

青森 福士盛大

青森  
福士盛大

青森 三上 忠英

広島 渡辺晋山